

宮廷の近世スペイン建築

ハプスブルクとブルボンの掌の上で

- その築城術と宮殿建築について -

中島 智章(なかしま ともあき)
工学院大学工学部建築学科講師(専任)

序.ハプスブルク王朝とブルボン王朝

1469年:カスティーリャ女王イサベル(1474-)とアラゴン国王フェルナンド5世(1479-)の結婚 カトリック両王

1496年:両王の姫フアナとシャルル・ル・テメールの孫フィリップの結婚 シャルル誕生(1516年スペイン王位)

1661年:フェリペ4世の姫マリア=テレサとフランス国王ルイ14世の結婚 孫アンジュー公フィリップ(1700年-)

1.イスラム建築、ゴシック建築、ルネサンス建築

イスラム建築 中世以来、イベリア半島にはイスラム勢力が根を下ろしていた

グラナダのアルハンブラ宮殿:14世紀に最盛期を迎えたナスル朝(1232-1492)の栄華

セビーリャのアルカザール(=王城):913-914年以来、長きにわたって増改築を繰り返す

レコンキスタ(再征服=国土回復運動の進展) グラナダ陥落(1492)=レコンキスタの完成

12-16世紀:ムデハール様式等(イスラム芸術+ヨーロッパ・キリスト教芸術)、プラテレスコ(銀細工)様式(初期ルネサンス)

バルセロナ大聖堂、グラナダ大聖堂(東端部1528-1559)、セビーリャ大聖堂(1402-1506、鐘塔1184-1198)

「太陽の沈まぬ帝国」=カルロス1世(皇帝カール5世)、フェリペ2世治世下の建築

MACHUCA, Pedro: Palacio de Carlos V (1527-1592、円形中庭1530頃、正面下階1551-1563、正面上階1586-1592)

TOLEDO, Juan Bautista des; HERRERA, Juan de: エル・エスコリアル(1562-1582) フェリペ2世の隠居所

ハプスブルク家領低地地方(詳細は次章)=中世以来、北イタリアと並ぶ都市化地域=カルロス1世とフェリペ2世の生地
ブルッヘの記録保存所(1535-37)、アントウェルペン市庁舎(1561-65)、ブリュッセルのグラン・プラス(大広場)

2.スペイン王国の築城術

ブルゴーニュ公国の遺産 低地地方(=Pays-Bas, Nederlands)17州

1598年にフェリペ2世の娘イサベル(-1633)と夫君アルベール大公(-1621 マクシミリアン2世の第6子)の統治

北部7州(Groningue, Frise, Overijssel, Gueldre, Utrecht, Hollande, Zélande)独立 1609年4月9日に12年の休戦条約

南部10州(Artois, Flandre, Hainaut, Brabant, Namur, Malines, Tournai, Gueldre espagnole, Limbourg, Luxembourg)

がスペイン統治下に留まる 北部7州の新教とフランスのガリカニズムに対するトリエント信経(1564)によるカトリック信仰
+ 市政における自治権の保証(フランドル、ブラバン、リエージュに三部会) 総督は軍事面を掌握

アントウェルペン港の閉鎖やスペイン本国の衰退により、経済的にも軍事的にも弱体化する

trace italienne イタリア式築城術 コンスタンチノープル陥落(1453)と仏王シャルル8世、ルイ12世、フランソワ1世によるイタリア遠征(1494~)

平面:半月堡(demi-lune)、稜堡(bastion)、幕壁()

断面:斜堤(glacis)、掩体道(chemin couvert)、外岸壁(contrescarpe)、堀(fossé)、内岸壁(escarpe)、胸壁(parapet)

* VAUBAN(1633-1707) vs Menno van COEHOORN(1641-1704)

パルマ、イーペル、リール、ナミュール、リエージュ、ルクセンブルク(リュクサンブール)、ベルフォール…函館五稜郭
軍事計画都市 敵対する勢力間の版図の変化 ex)ピレネー講和条約(1659年11月7日)とシャルルロワ要塞の建設

パルマ・ノーヴァ、フィリップヴィル、マリアンブール、シャルルロワ、ヌフ・ブリザック

ex)首都防衛要塞シャルルロワ(1666年7月~) 即位したばかりの幼王カルロス2世の名を冠する=ブリュッセル南方の護り

3.ブルボン家の宮殿建築

フェリペ5世の登極 カルロス2世の死に伴う王位継承戦争

フェリペ4世の曾孫でルイ14世の孫アンジュー公爵フィリップ対レオポルト1世の息子カール

1713年ユトレヒト和約でフィリップのスペイン王位確定 宮廷生活、肖像画、グランハ庭園、アカデミー創設

ヴェルサイユ宮殿の平面構成

1668-1670年:新城館=enveloppe 北棟の国王のアパルトマン+南棟の王妃のアパルトマン=「双子の宮殿」

北棟 国王のアパルトマン:饗宴の間、控えの間、寝室、広間(左右対称、ファサードとの対応)

広間、衛兵の間、控えの間、寝室、閣議の間、小寝室、広間

七惑星主題 イタリアのルネサンス・バロック(フェッラーラのスキファノイア宮、フィレンツェのピッティ宮)

広間名(機能)	広間名(七惑星)	惑星名	ギリシア神名	ラテン神名	司る領域
広間	ディアーヌの間	月	アルテミス	ディアナ	狩猟と航海
衛兵の間	マルスの間	火星	アース	マルス	戦争
控えの間	メルキュールの間	水星	ヘルメス	メルクリウス	科学と芸術
寝室	アポロンの間	太陽	アポローン	アポロー	「寛大」と「壮麗」
閣議の間	ジュピテルの間	木星	ゼウス	ユーピテル	「機情」と「公正」
小寝室	サテュルヌの間	土星	クロノス	サトゥルヌス	「賢明」と「秘密」
広間	ヴェニスの間	金星	アフロディーテ	ウェヌス	愛と美

南棟 王妃のアパルトマン:同上の構成と変遷 宮廷社会のあり方(貴族の夫婦関係、召使いとの関係)

外交状況(スペイン領低地地方の王妃への帰属問題)

「双子の城館」モデル 新城館の「正面」をめぐる現場監督と建設長官コルベールの見解の相違

両アパルトマンの天井画主題の同一性(二つの太陽)

1678-1686年:戦争の間+鏡の間+平和の間

大使の階段、鏡の間の天井画(主題、新オーダー、使用言語) 新旧論争=神聖不可侵の「古代」の権威が揺らぐ

1)アポローン神話に基づく計画案=神々の懲罰

2)ヘーラクレース神話に基づく計画案=12の難行

3)「国王の歴史」に基づく計画案その1 当世風の衣装による

4)「国王の歴史」に基づく計画案その2 古代風の衣装による

1661年の親政開始以来のルイ14世の功業+オランダ戦争(1672-1679)=開戦からネイメーヘン和約まで

1683年:王妃マリー=テレーズの死 国王のアパルトマンが大理石の前庭側に移動 宮殿が機能によって3分

1)公の場:大使の階段 大アパルトマン(旧国王のアパルトマン) 鏡の間

2)国王の日常生活:大理石の階段 国王のアパルトマン 国王の私的アパルトマン(大理石の前庭を囲うように)

3)私の場:ルイ13世の小城館と新城館の間の中庭まわりの空間

1701年:国王の寝室が大理石の前庭側ファサード中央にあたる広間に移動 国家=国王の図式が完成

マドリード王宮の平面構成

JUVARA, Filippo; SACCHETTI, Giovanni Battista: Palacio Real (1735, 1738-1764)

1)御手への接吻の間=大階段=方形中庭=礼拝堂という構成

2)国王の存在が中央にこない

3)私の場の欠如(主要階)

スペイン宮廷の伝統=マドリードのアルカザール、エル・エスコリアル... ナポリのカゼルタ王宮にも大規模に踏襲



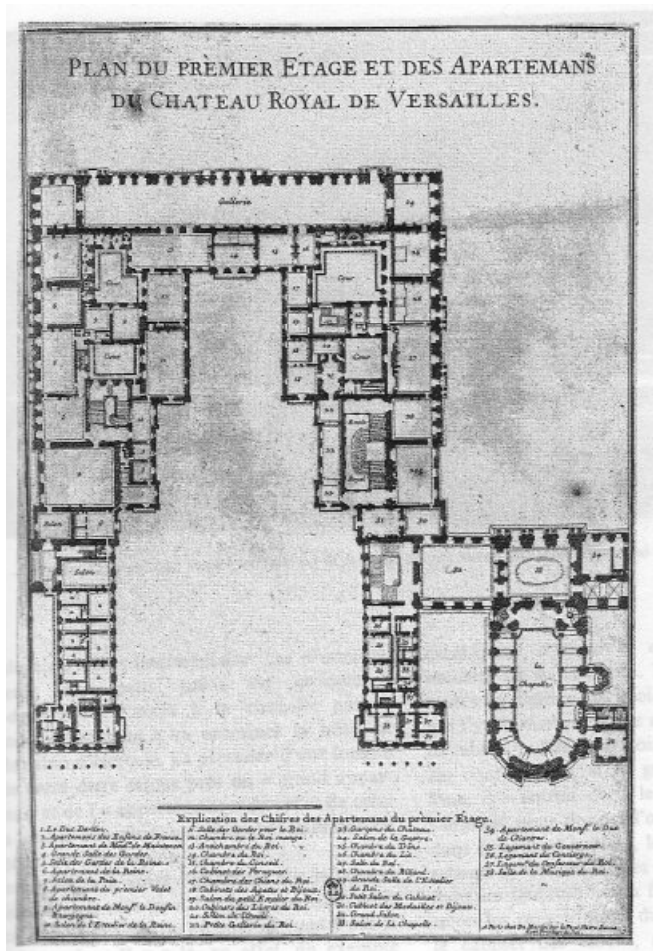
←フィリップヴィル平面図
17世紀にヴォーバンによって
大幅な改造を受けている。



トゥルネ平面図→
南西のシタデルを含め、
ほとんどの都市防御施設は
現存しない。

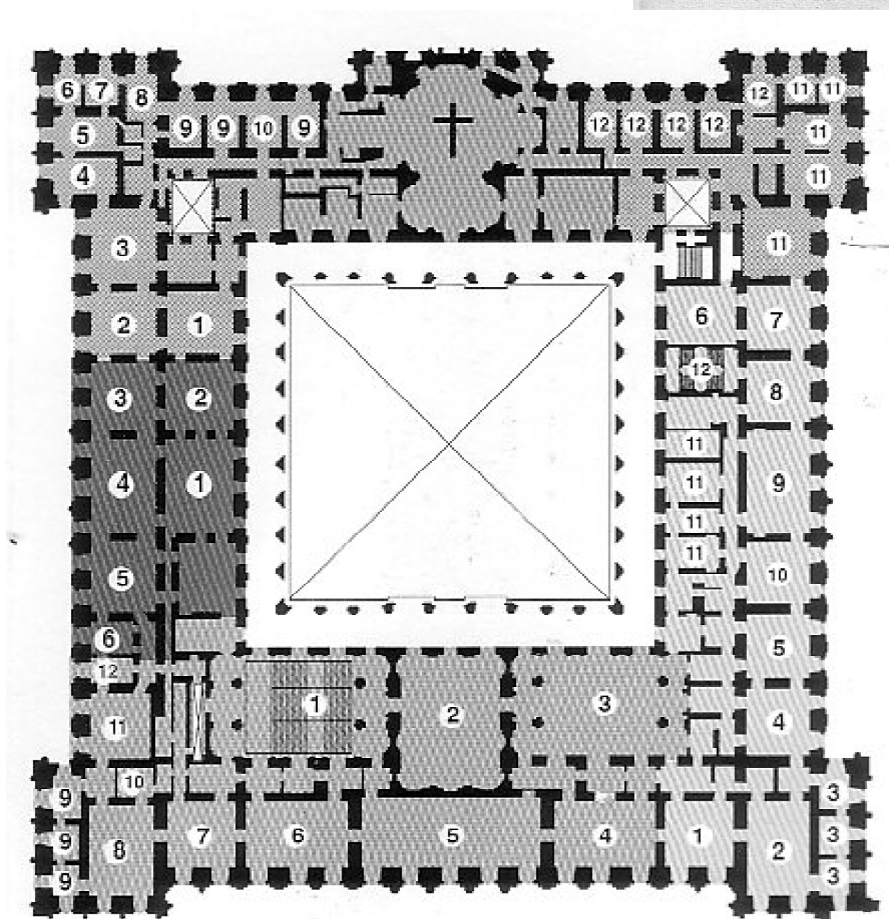
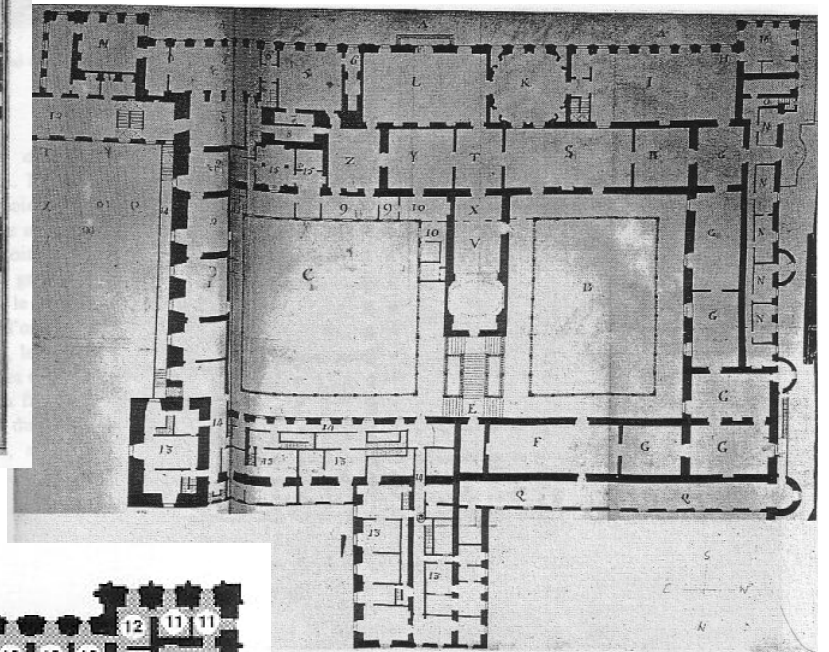


←トゥルネ立体模型
ルイ14世治下、
戦略戦術検討と
コレクションのために
製作された。



←ヴェルサイユ宮殿中央部2階平面図

18世紀に描かれたもの。上が西。



↑マドリードの
アルカザール(王城)平面図
現存せず。

←マドリード王宮計画案2階平面図
実施案では③の部分に大階段設置。